

# 第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

## 【PLAN】

### 事務事業の目的と成果

事業名	公民館主催事業				事業期間 第6期総合計画 の位置付け	昭和 56 年度 ~ — 年度			所管課係	社会教育課文化学習係
	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外		3-2-3	他に関連する 基本事業	3-2-1		
目的 (何のために実施する のか)	地域課題や市民の学習ニーズに対応した講座・教室・講演会を開催して、継続的学習を行う新規グループ・サークルの 設立や既存グループ・サークルの活性化を図りながら、誰もが経済力等の境遇に左右されことなく公平に学ぶことの できる機会を確保し、地域課題の解決、市民の教養の向上や技術の習得につなげる。				手段 (どのような方法で 実現するのか)			地域課題や市民の学習ニーズに対応した講座・教室・講演会を企画し、広報すながわ・オアシス通信・パンフレット等 により受講案内をし、申し込みについては公民館窓口又は電話等で受け付ける。		
対象 (誰・何を対象として いるのか)	一般市民				成果 (どのような効果が 得られるのか)			講座・教室・講演会にできるだけ多くの市民に参加してもらうことにより、地域課題の解決、市民の教養の向上や技術 の習得の機会が確保される。		
事業開始時の状況・これまでの 経緯（行革内容含む）	公民館開設以来、各種の講座、教室などを開催している。 その内容は教養や健康・生活・技能など多岐にわたり、毎年内容の見直しを行いながら現在に至っている。									

## 【DO】

### 実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期 総合計画 計		
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 合計	
投入 された 事業 費	国 費	計画額			0				0					0	0	
		予算計上額			0				0					0	0	
		実績額			0				0					0	0	
	道 費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
一般財源	計画額	566,000	566,000	566,000	1,698,000	416,000	416,000	416,000	1,248,000	416,000	416,000	416,000	416,000	1,664,000	4,610,000	
	予算計上額	566,000	566,000	416,000	1,548,000	416,000	348,000	416,000	1,180,000	416,000	416,000	416,000	416,000	1,664,000	4,392,000	
	実績額	492,000	536,000	408,000	1,436,000	356,000	166,000	314,000	836,000	330,000	268,000	198,000		796,000	3,068,000	
事業費合計	計画額	566,000	566,000	566,000	1,698,000	416,000	416,000	416,000	1,248,000	416,000	416,000	416,000	416,000	1,664,000	4,610,000	
	予算計上額	566,000	566,000	416,000	1,548,000	416,000	348,000	416,000	1,180,000	416,000	416,000	416,000	416,000	1,664,000	4,392,000	
	実績額	492,000	536,000	408,000	1,436,000	356,000	166,000	314,000	836,000	330,000	268,000	198,000	0	796,000	3,068,000	
の 移	事業費予算の 内容	講師謝礼	講師謝礼	講師謝礼		講師謝礼	講師謝礼	講師謝礼		講師謝礼	講師謝礼	講師謝礼	講師謝礼			
	前年度予算との 比較 (増減理由)	前年度同額	前年度同額	文化振興事業交 付金移行分の減 △150千円		前年度同額	公民館閉館による 開催回数の減	前々年度同額		前年度同額	前年度同額	前年度同額				
	実績との比較 (増減理由)	講師謝礼が不要な 講師を招聘したこと などによる。 3月補正 △74千円	市民大学講演会 の講師謝礼が安 価でできたため 3月補正 △34千円	執行残		市民大学講師謝 礼の減 3月補正 △60千円	市民大学講師謝 礼の減 3月補正 △182千円	市民大学講師謝 礼の減 3月補正 △102千円		市民大学講師謝 礼の減 3月補正 △86千円	市民大学講師謝 礼の減 3月補正 △148千円	市民大学講師謝 礼の減 3月補正 △218千円				

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：公民館講座等実施回数	指標の求め方：年度内に実施した市民大学講演会、公民館講座、公民館教室の開催回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：公民館講座等受講者数	指標の求め方：公民館講座等受講者数

指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値	15	15	15		15	15	15		15	15	15	15	
	実績値	実績値	12	17	15		10	11	16		14	13	16		
成果指標 1 (単位/人)	計画値	計画値	189	187	185		183	181	179		176	174	172	170	
	実績値	実績値	218	212	255		277	253	438		377	299	344		
事業評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている				達成されている				達成されている	
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている				変わらない				変わらない	
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない				変わらない				変わらない	
	総合評価					普通である				普通である				普通である	
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：講座等の開催回数は計画値を下回っているが、受講者数は対前年度比で213人に対して218人と5人程度増加しており、成果指標でも計画値を上回っている。また、受講者からの評価も高いため	自己分析：事業指標については計画値を上回っている。また、受講者アンケートの内容も評価が高かった。しかし、前年度と比較すると受講者数が減少している。	自己分析：事業の実施回数は計画どおり実施。受講者数も増加している。受講者アンケートの内容も評価が高く、事業実績は上がっている。	判断理由：目標値を187人としていたところ、212人で目標を上回っており、受講生数は前年度より減少したため。	自己分析：事業実施回数は、下回っているが、受講者数は増加している。受講者アンケートの満足度は高い。内容的には、体験型の講座が好評である。	自己分析：事業実施回数は、計画値を下回っている。また、受講者数は若干減少している。公民館閉館の影響はある。受講者アンケートの満足度は高い。講師、テーマ、内容により、受講者数はばらつきが生じる。	自己分析：事業の実施回数は計画値を若干上回っている。また、受講者数も増加している。受講者アンケートの内容も評価が高く、事業実績は上がっている。	判断理由：受講者数目標値は、上回っている。事業実施回数が受講者の増減の直接要因ではないと考え、判断したため。	自己分析：事業の実施回数はほぼ計画値どおりとなっている。受講者数については減少傾向ではあるが、計画値を上回っていて、受講者アンケートの内容は評価が高いことから、事業実績は一定程度上がっている。	自己分析：事業の実施回数は計画値を下回っている。受講者数については減少傾向ではあるが、計画値を上回っていて、受講者アンケートの内容は評価が高いことから、事業実績は一定程度上がっている。	自己分析：事業の実施回数は計画値を若干上回っている。また、受講者数も増加している。受講者アンケートの内容も評価が高く、事業実績は一定程度上がっている。	自己分析：受講者数目標値は、上回っている。事業実施回数が増減の直接要因ではないと考えたため。	
今後の方向性					縮小				現状のまま継続					現状のまま継続	
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25：公民館だけでなく、多様な主体による学習機会の提供を促すことにより、より効果的な事業の推進を図ることができると考えられることから、主催事業を縮小する。					H28：公民館以外でも、多種多様な学習機会の提供がされており、現状を維持する方向で主催事業を進める。受講者アンケート等を参考にしながら、効果的な事業推進を図る。					H30：公民館主催事業以外にも、多様な主体な学習機会の提供がされているが、社会教育法に定める公民館の目的のため、現状を継続する方向で主催事業を進める。受講者アンケート等を参考にしながら、効果的な事業推進を図る。受講者アンケートの満足度は高い。				

# 第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

## 【PLAN】

### 事務事業の目的と成果

事業名	出張公民館事業				事業期間	平成 23 年度 ～ — 年度								
事業性質区分	新規・継続	新規	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	3-2-3	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	所管課係	社会教育課文化学習係
目的 (何のために実施するのか)	公民館グループ・サークルと連携し、公民館へ来館が困難な市民に対して学習機会を提供できるようにし、公民館グループ・サークルの学習成果の地域還元をすることによるグループ・サークルの活性化を促すとともに地域における学習機会を確保する。						手段 (どのような方法で実現するのか)		公民館グループ・サークルで活動している人材が主体となり、市内東・南・北地区コミュニティセンターあるいは地域から要請があれば町内会館等で講座を開催することに関する必要な調整を行う。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	公民館への来館が困難な市民						成果 (どのような効果が得られるのか)		公民館に来ることが困難な市民が身近な場所で学習機会があることを知ることにより学習活動に取り組む市民が増加する。また、公民館グループ・サークルの学習成果を地域還元をすることを通して新規会員が加入するなどのグループ・サークルの活性化が図られる。					
事業開始時の状況・これまでの経緯 (行革内容含む)	平成23年度より事業実施に向けて意向調査・調整等を行い、平成25年度より実施している。													

## 【DO】

### 実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期総合計画		
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 合計	
投入された事業費の推移	国費	計画額			0				0	12,000	12,000	12,000	12,000	48,000	48,000	
		予算計上額			0				0						0	0
		実績額			0				0						0	0
	道費	計画額			0				0	6,000	6,000	6,000	6,000	24,000	24,000	
		予算計上額			0				0						0	0
		実績額			0				0						0	0
	地方債	計画額			0				0						0	0
		予算計上額			0				0						0	0
		実績額			0				0						0	0
	その他	計画額			0				0	25,000	25,000	25,000	25,000	100,000	100,000	
		予算計上額			0				0						0	0
		実績額			0				0						0	0
一般財源	計画額		49,000	49,000	98,000	51,000	51,000	51,000	153,000	8,000	8,000	8,000	8,000	32,000	283,000	
	予算計上額		0	51,000	51,000	51,000	51,000	51,000	153,000	51,000	51,000	51,000	51,000	204,000	408,000	
	実績額		0	8,000	8,000	51,000	50,760	50,760	152,520	50,920	50,760	50,534		152,214	312,734	
事業費合計	計画額	0	49,000	49,000	98,000	51,000	51,000	51,000	153,000	51,000	51,000	51,000	51,000	204,000	455,000	
	予算計上額	0	0	51,000	51,000	51,000	51,000	51,000	153,000	51,000	51,000	51,000	51,000	204,000	408,000	
	実績額	0	0	8,000	8,000	51,000	50,760	50,760	152,520	50,920	50,760	50,534	0	152,214	312,734	
事業費予算の内容			会場借上料	会場借上料		消耗品費	消耗品費	消耗品費		消耗品費	消耗品費	消耗品費	消耗品費			
	前年度予算との比較 (増減理由)		前年度事業計画なし	平成25年度新規計上		前年度同額(支出費目変更)	前年度同額	前年度同額		前年度同額	前年度同額	前年度同額	前年度同額			
	実績との比較 (増減理由)		増減なし	講座開催時の会場借上料が必要ないことによる執行残		同額	執行残	執行残		執行残	執行残	執行残	執行残			





【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：開館日数				指標の求め方：公民館の開館日数							
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：施設機能に起因する使用不能件数				指標の求め方：年度内における施設機能が起因して使用できない件数をカウント							
指標	活動指標 1 (単位/日)	計画値	360	359	359	359	360	359	359	359	360	359	
		実績値	360	359	359	359	207	359	359	356	359		
指標	成果指標 1 (単位/件)	計画値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		実績値	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
事業評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)												達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)												上がっている
	事業の効率性 (事業費に対する成果)												変わらない
	総合評価												普通である
	評価内容	自己分析： 現在の施設が建設以来30年を経過し、施設の老朽化に伴う破損や故障が増えている。	自己分析： 施設・設備の老朽化に伴い、破損や故障が増大してきている。	自己分析： 施設・設備の老朽化に伴い、破損や故障が増えている。図書館空調設備が改修され、利用環境が整えられた。	判断理由： 施設・設備の老朽化・陳腐化が進行していることから、現代的な学習ニーズや課題に十分対応できない状態ではないが、必要な改修等は実施し最低限の施設機能の維持を図られている。	自己分析： 施設・設備の老朽化に伴い、破損や故障が増えている。耐震改修等工事に向け、実施設計を行った。	自己分析： 耐震改修等工事の後も、公民館閉館中のグループ・サークルの活動施設調節など公民館が実施し、継続して活動された。	自己分析： 耐震改修等工事の後も、公民館閉館中のグループ・サークルの活動施設調節など公民館が実施し、継続して活動された。	判断理由： 耐震改修等工事を行い、耐震、老朽化した施設・設備が整えられたことから、学習環境は改善されている。	自己分析： 耐震改修等工事後、公民館施設の保守・設備の維持を定期的に行っている。図書館についても保守・設備の維持を定期的に行い、利用環境は、一定程度整えられた。	自己分析： 耐震改修等工事後、公民館施設の保守・設備の維持を定期的に行っている。図書館についても保守・設備の維持を定期的に行い、利用環境は、一定程度整えられた。開館日数の減については、平成30年北海道胆振東部地震により、避難所が開設されたことによるものである。	自己分析： 耐震改修等工事の保守・設備の維持を定期的に行っている。図書館についても保守・設備の維持を定期的に行い、利用環境は、一定程度整えられた。	判断理由： 公民館は耐震改修等工事を行い、耐震、老朽化した施設・設備が整えられ、また、計画的な設備の修繕も行われた。また、郷土資料室、図書館において、必要な改修等を実施して最低限の施設機能の維持を図っていることから、学習環境は改善されている。
今後の方向性					現状のまま継続				現状のまま継続				現状のまま継続
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25： 定期的に施設・設備の点検をしながら、必要となる改修・修繕箇所の把握に努めているが、予想していない箇所の故障や破損が散見されている。また、公民館の耐震強度が不足しているが改修の方向性については検討中である。				H28： 公民館耐震改修等工事を行ったことから大規模な改修・修繕は予定していない。ただし、隣接する図書館が建設以来30年以上経過していることから、施設・設備の点検をしながら、計画的な修繕の検討が必要である。				H30： 公民館は耐震改修等工事を行ったことから大規模な改修・修繕は予定していないが、設備備品の更新は必要であり、計画的に行っていく。 また、郷土資料室内展示については、昭和56年の開設以来大規模な改修・修繕を行っていないことから、全面的な改修を検討して行く。 図書館についても、建設以来30年以上経過していることことから、施設・設備の定期的な点検を行いながら、計画的な大規模修繕が必要である。				

# 第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

## 【PLAN】

### 事務事業の目的と成果

事業名	<b>図書館開館時間延長事業</b>				事業期間	平成 8 年度 ～ ー 年度						所管課係	図書館管理係	
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	3-2-3	他に関連する基本事業	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
目的 (何のために実施するのか)	通常の開館時間（10：00～18：00）に図書館の利用が困難な市民に対して、図書館の開館時間を延長する日を設け、市民の利便性向上に繋げる。						手段 (どのような方法で実現するのか)		毎週水曜日及び金曜日（祝日を除く）の開館時間を20：00まで2時間延長。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	通常の開館時間に図書館の利用が困難な市民。						成果 (どのような効果が得られるのか)		開館時間を延長することにより、その時間帯における来館者・貸出が増加し、図書館の利用機会の拡大を図ることができる。					
事業開始時の状況・これまでの経緯（行革内容含む）	平成8年度より、生涯学習社会の到来を迎え、市民に親しまれ利用しやすい施設づくりの一環として市民の学習意欲に応える様、一律午前10時から午後6時までだった開館時間を水・金の週2日間、午後8時までの開館に変更した。													

## 【DO】

### 実績

（単位：円）

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期 総合計画 合計	
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31年度)	第10年次 (32年度)		実施4カ年 合計
投入された事業費の推移	国費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	道費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	地方債	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	その他	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
一般財源	計画額	1,764,000	1,764,000	1,764,000	5,292,000	1,776,000	1,776,000	1,776,000	5,328,000	1,788,000	1,788,000	1,788,000	1,788,000	7,152,000	17,772,000
	予算計上額	1,764,000	1,800,000	1,800,000	5,364,000	1,776,000	1,776,000	1,776,000	5,328,000	1,788,000	1,812,000	2,335,000	2,765,000	8,700,000	19,392,000
	実績額	1,764,000	1,800,000	1,794,000	5,358,000	1,776,000	1,776,000	1,776,000	5,328,000	1,788,000	1,812,000	2,314,340		5,914,340	16,600,340
事業費合計	計画額	1,764,000	1,764,000	1,764,000	5,292,000	1,776,000	1,776,000	1,776,000	5,328,000	1,788,000	1,788,000	1,788,000	1,788,000	7,152,000	17,772,000
	予算計上額	1,764,000	1,800,000	1,800,000	5,364,000	1,776,000	1,776,000	1,776,000	5,328,000	1,788,000	1,812,000	2,335,000	2,765,000	8,700,000	19,392,000
	実績額	1,764,000	1,800,000	1,794,000	5,358,000	1,776,000	1,776,000	1,776,000	5,328,000	1,788,000	1,812,000	2,314,340	0	5,914,340	16,600,340
事業費予算の内容	司書報酬	司書報酬	司書報酬		司書報酬	司書報酬	司書報酬		司書報酬	司書報酬	司書報酬	司書報酬及び 期末手当			
	前年度予算との比較 (増減理由)	前年度同額	司書報酬の増額	前年度同額		司書報酬交通費の減額	前年度同額	前年度同額		司書報酬の増額	司書報酬の増額	司書報酬の時間 数増による増額	司書報酬の増及 び期末手当支給 による増額		
	実績との比較 (増減理由)	同額	司書報酬の増額	司書報酬交通費 の減額		同額	同額	同額		同額	同額	勤務日数減（病 欠）による減額			

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：夜間開館実施日数				指標の求め方：年度内に夜間開館を実施した日数をカウント							
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：夜間開館時市民貸出冊数				指標の求め方：夜間開館時に市民に貸出した冊数							
指標	活動指標 1 (単位/日)	計画値	97	99	96	99	98	98	98	98	96	97	98
		実績値	97	94	93	97	96	91	91	96	94		
成果指標 1 (単位/冊)		計画値	1,079	1,086	1,092	1,097	1,103	1,107	1,112	1,116	1,119	1,122	
		実績値	3,382	3,413	3,939	4,052	2,395	2,158	2,892	2,658	2,524		
事業評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている				ほぼ達成されている				ほぼ達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている				あまり上がっていない				あまり上がっていない
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない				変わらない				あまり上がっていない
	総合評価				良好である				普通である				普通である
	総合評価の判断理由	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、平成8年度より事業を開始し、市民に一定程度定着してきている	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、平成8年度より事業を開始し、市民に一定程度定着してきている	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、平成8年度より事業を開始し、市民に一定程度定着してきている。1回あたりの貸出冊数を5冊から10冊に増やしている。	判断理由：開館時間延長日における平成23年度実績と比較すると平成24年度の1日当たりの来館者は減少しているが、貸出冊数は増加しており、入館者1人当たりの貸出冊数を比較すると4.1冊から4.4冊と増加している。	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、平成8年度より事業を開始し、市民に一定程度定着してきている。1回あたりの貸出冊数を5冊から10冊に増やしている。	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、平成8年度より事業を開始し、市民に一定程度定着してきている。※7～11月の公民館耐震改修等工事で公民館が休館。	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、平成8年度より事業を開始し、市民に一定程度定着してきている。※児童書架改修工事により8月30日～9月15日まで図書館休館、9月16日～9月30日まで児童書の貸出休止。	判断理由：開館時間延長日における平成26年度実績と比較すると平成27年度の貸出は減少している。7～11月の公民館耐震改修等工事の影響があったと思われる。	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、夜間開館時に市民に貸出した冊数計画値を上回っている。平成8年度より事業を開始し、市民に定着している。	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、夜間開館時に市民に貸出した冊数計画値を上回っている。平成8年度より事業を開始し、市民に定着している。	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、夜間開館時に市民に貸出した冊数計画値を上回っているが、夜間開館時に貸出した冊数は前年度より減少している	自己分析：開館時間延長日における平成29年度実績と比較すると平成30年の貸出は減少している。だが、計画値から見ると上回っており、事業が市民に定着してきている。
今後の方向性				現状のまま継続				現状のまま継続				現状のまま継続	
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25：事業が利用者に対して認知されてきていることから当面は事業を継続したいという方針ではあるが、一部に事業の拡大を望む声もあることから、事業実績の動向に注視しつつ、地域の就業時間帯や図書館の置かれている環境などを総合的に勘案する必要がある。				H28：事業が利用者に対して認知されてきていることから当面は事業を継続していく。				H30：事業が利用者に対して認知されてきていることから当面は事業を継続していく。				

# 第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

## 【PLAN】

### 事務事業の目的と成果

事業名	図書充実事業				事業期間	昭和 58 年度 ～ 年度						所管課係	図書館管理係	
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	3-2-3	他に関連する基本事業	-	-	-	-	-	-	-
目的 (何のために実施するのか)	図書等の必要な資料を適切に収集、整理、保存しながら市民に供し、教養、調査研究等市民の自主的学習を支援する。						手段 (どのような方法で実現するのか)		利用者ニーズや図書の発刊の状況、蔵書の構成や図書の利用状況を見据え、計画的に図書等を整備し、適正に整理・保存できるようにしたうえ、これらに関して分かりやすく案内・提供するとともに、利用者等からの相談に応じる。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	市民一般、団体						成果 (どのような効果が得られるのか)		より多くの市民に活用されるようにすることにより、市民の教養の向上や地域課題の解決に繋がる糸口が見いだされる。					
事業開始時の状況・これまでの経緯 (行革内容含む)	昭和57年度の図書館の開館と同時に事業を開始。													

## 【DO】

### 実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期総合計画計	
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31年度)	第10年次 (32年度)		実施4カ年 合計
投入された事業費の推移	国費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	道費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	地方債	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	その他	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0			325,000	1,000,000	1,000,000	2,325,000
一般財源	計画額	4,546,000	4,546,000	4,546,000	13,638,000	4,534,000	4,559,000	4,559,000	13,652,000	4,559,000	4,559,000	4,559,000	4,559,000	18,236,000	45,526,000
	予算計上額	4,529,000	4,516,000	4,528,000	13,573,000	4,534,000	4,544,000	4,535,000	13,613,000	4,547,000	4,533,000	4,543,000	4,546,000	18,169,000	45,355,000
	実績額	4,489,765	4,513,957	4,531,511	13,535,233	4,530,587	4,538,658	4,527,602	13,596,847	4,533,327	4,527,377	4,545,635		13,606,339	40,738,419
事業費合計	計画額	4,546,000	4,546,000	4,546,000	13,638,000	4,534,000	4,559,000	4,559,000	13,652,000	4,559,000	4,559,000	4,559,000	4,559,000	18,236,000	45,526,000
	予算計上額	4,529,000	4,516,000	4,528,000	13,573,000	4,534,000	4,544,000	4,535,000	13,613,000	4,547,000	4,858,000	5,543,000	5,546,000	20,494,000	47,680,000
	実績額	4,489,765	4,513,957	4,531,511	13,535,233	4,530,587	4,538,658	4,527,602	13,596,847	4,533,327	4,852,295	5,543,929	0	14,929,551	42,061,631
事業費予算の内容	図書購入費 雑誌等購入費	図書購入費 雑誌等購入費	図書購入費 雑誌等購入費		図書購入費 雑誌等購入費	図書購入費 雑誌等購入費	図書購入費 雑誌等購入費		図書購入費 雑誌等購入費	図書購入費 雑誌等購入費	図書購入費 雑誌等購入費	図書購入費 雑誌等購入費	図書購入費 雑誌等購入費		
前年度予算との比較 (増減理由)	購入予定雑誌等の変更による減	購入予定雑誌等の変更による減	購入予定雑誌等の変更による増		消費税増税分の増	購入予定雑誌等の変更による減	購入予定雑誌等の変更による減		購入予定雑誌等の変更による増	購入予定雑誌等の変更による減	寄付金による増	購入雑誌単価変動による増			
実績との比較 (増減理由)	不定期刊行雑誌の刊行回数が少なかったため	不定期刊行雑誌の刊行回数が少なかったため	購入雑誌等の刊行時の単価変動による増		購入雑誌等の刊行時の単価変動による増	不定期刊行雑誌の刊行回数が少なかったため	不定期刊行雑誌の刊行回数が少なかったため		不定期刊行雑誌の刊行回数が少なかったため	寄付金による増	寄付金、購入雑誌等の刊行時の単価変動による増				

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：年間貸出冊数				指標の求め方：1年度間の貸出冊数				成果指標 1 (「成果」をもとに設定)				指標名：図書館業務に対する苦情件数				指標の求め方：1年度間に寄せられる苦情件数			
指標	活動指標 1 (単位/冊)	計画値	72,000	72,000	72,000		72,000	72,000	72,000		72,000	72,000	72,000	72,000							
		実績値	72,263	67,477	75,496		74,971	67,133	66,172		66,502	63,794	63,592								
指標	成果指標 1 (単位/件)	計画値	0	0	0		0	0	0		0	0	0	0							
		実績値	0	0	0		0	0	0		0	0	0								
事業評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない					あまり達成されていない								あまり達成されていない		
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					少し上がっている					少し上がっている								変わらない		
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない					変わらない								変わらない		
	総合評価					普通である					普通である								普通である		
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：貸出図書のリクエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っている。	自己分析：貸出図書のリクエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っている。	自己分析：貸出図書のリクエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っている。1回あたりの貸出冊数を5冊から10冊に増やしている。	判断理由：前年度の1日当たりの貸出冊数は256.3冊で5.3%程度減少しているが、入館者一人当たりの貸出冊数は昨年並みで、入館者に対するニーズはある程度満たしている。	自己分析：貸出図書のリクエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っている。1回あたりの貸出冊数を5冊から10冊に増やしている。	自己分析：貸出図書のリクエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っている。※7～11月の公民館耐震改修等工事で公民館が休館。	自己分析：貸出図書のリクエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っている。※児童書架改修工事により8月30日～9月15日まで図書館休館、9月16日～9月30日まで児童書の貸出休止。	判断理由：平成27年度の1日当たりの貸出冊数は239.7冊で、10.2%程度減少しているが、7～11月の公民館耐震改修等工事で公民館が休館したことが影響したと思われる。	自己分析：貸出図書のリクエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っているが、1年度間の貸出冊数は計画値を下回っている。	自己分析：貸出図書のリクエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っているが、1年度間の貸出冊数は計画値を下回っている。	自己分析：貸出図書のリクエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っているが、年間貸出冊数は前年度と比べて0.3%減のほぼ横ばいとなっているが、1年度間の貸出冊数の計画値は下回っている。	自己分析：貸出図書のリクエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っているが、1年度間の貸出冊数は計画値を下回っている。	判断理由：平成30年度の1日当たりの貸出冊数は231.9冊で4.0%程度減少しているが、入館者一人当たりの貸出冊数は昨年並みで、入館者に対するニーズはある程度満たしている。						
今後の方向性					現状のまま継続					現状のまま継続								現状のまま継続			
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)		H25：読書ニーズや地域課題を把握し、市民にとって利用価値が高まる取組を進めている。				H28：読書ニーズや地域課題を把握し、市民にとって利用しやすい読書環境を整えていく。				H30：読書ニーズや地域課題を把握し、市民にとって利用しやすい読書環境を整えていく。											